科目ナンバリング	U-LAS02 20016 LJ37				
授業科目名<英訳>	ギリシア語A Greek A		担当者所属職名・氏名	非常勤講師 西井　奨	
群	人文・社会科学科目群	分野(分類)	芸術・文学・言語(各論)	使用言語	日本語
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）
開講年度・開講期	2026・前期	曜時限	水2	配当学年	全回生	対象学生	全学向

[授業の概要・目的]

ここで学ぶギリシア語は、古代地中海世界で連綿と使用され続け、西洋の古典として哲学・史学・文学の分野において極めて重要な作品群を生み出した古代のギリシア語である。

ギリシア文学史の最盛期たる古典期にあたるのが紀元前5世紀・紀元前4世紀であり、この時期のアテナイを中心としたアッティカ地方で使用されていたギリシア語が、現代に生きる私たちが古代のギリシア語を学ぶ上で第一に規範とするべきものとなる。これをしっかりと身に付けることで、古代地中海世界におけるその他の時期・地域のギリシア語も読むことができるようになるのである。

古代のギリシア語で書かれたテクストは、代表的なものだけでも、ホメロス、ヘシオドス、ピンダロス、アイスキュロス、ソポクレス、エウリピデス、アリストパネス、ヘロドトス、トゥキュディデス、プラトン、クセノポン、アリストテレス、プルタルコス、ルキアノス、プロティノス、新約聖書、七十人訳聖書など多岐に渡る。ギリシア語を学ぶにあたっては、こういった作家や作品のギリシア語表現を文法的に正確に理解できることが重要となる。

このギリシア語A・ギリシア語Bでは、1年で一通りギリシア語の文法を学び終えて、辞書と文法書を頼りにギリシア語文献を独力で読めるようになることを目指す。

[到達目標]

前期開講のギリシア語Aの到達目標は、ギリシア語の名詞変化・形容詞変化、動詞の直説法の変化について理解し、簡単なギリシア語の短文ならば読めるようになることである。

[授業計画と内容]

教科書『ギリシア語入門』を毎回2〜3課ずつ進める。
前期では、第33（XXXIII）課まで進む。

1 発音/アクセント・直説法現在・第一変化の女性名詞（第1課〜第4課）
2 第一変化の女性名詞・未来（第5課〜第7課）
3 第一変化の男性名詞・未完了過去（第8課・第9課）
4 第二変化名詞・第一/第二変化形容詞（第10課・第11課）
5 前置詞・アオリスト（第12課・第13課）
6 現在完了・過去完了・指示代名詞・強意代名詞（第14課・第15課）
7 動詞の人称語尾・encliticのアクセント（第16課〜第18課）
8 疑問代名詞・中動態・人称代名詞（第19課〜第21課）
9 中動態・再帰代名詞・動詞の第2アオリスト形（第22課〜第24課）
10 受動態・第三変化名詞（第25課・第26課）
11 約音動詞・第三変化名詞（第27課〜第29課）
12 黙音幹動詞の完了形・第三変化形容詞（第30課・第31課）
13 流音幹動詞・第三変化名詞（第32課・第33課）

ギリシア語A(2)へ続く↓↓↓

ギリシア語Ａ(2)

14 第1課から第33課までのおさらい
≪定期試験≫
15 フィードバック（定期試験の解答解説）

毎回、各課の練習問題のギリシア語和訳をしてくること。

ギリシア語の発音は、講師の発音をしっかりと聞き取りつつ、各自で何度か練習しておくこと。ギリシア語も語学なので声に出して読めるようにしなければならない。

教科書『ギリシア語入門』は、十分な情報量を備えるが、レイアウト面で見づらい点がある。それを補うものとして、授業では解説の為の資料と、教科書とはまた別の観点からの動詞の変化表を配布する。

[履修要件]

後期開講のギリシア語Bも受講することが望ましい。

[成績評価の方法・観点]

毎回提出してもらう小課題と定期試験の合計点で評価する。
小課題の点数は定期試験での失点を補うものとして機能する。

[教科書]

田中美知太郎・松平千秋 『ギリシア語入門 新装版』（岩波書店、2012年）ISBN:978-4000225892（1962年初版の『ギリシア語入門 改訂版』と内容・レイアウトは同一なので、そちらを用いてもよい。）

[参考書等]

（参考書）
マルティン・チエシュコ（著）・平山晃司（訳） 『古典ギリシア語文典』（白水社、2016年）ISBN:978-4560086964
堀川宏 『しっかり学ぶ初級古典ギリシャ語』（ベレ出版、2021年）ISBN:978-4-86064-643-1
ギリシア語の辞書については、古川晴風『ギリシャ語辞典』大学書林（http://www.daigakusyorin.co.jp/book/b11837.html）の利用を強く薦めたい。日本語ネイティブ話者がギリシア語を学習するに際しては、この辞書を利用できるなら利用したほうが圧倒的に理解の助けとなる。しかしこの辞書は非常に高価なので購入するのはためらわれるだろう。さしあたって、大学図書館や所属研究室に置かれているものをその場で使うことになると思われる（研究室に未所属でも、その研究室に置かれている辞書を使えることもある）。しかし、もしギリシア語学習とギリシア語文献の読解を人生の伴とする可能性を考えるなら、ぜひ買って手許に置いて使ってもらいたい辞書である。
また下記のPerseus Digital Library上にある無料で参照できるギリシア語-英語辞書も活用してもらいたい。

（関連ＵＲＬ）

https://www.perseus.tufts.edu/hopper/morph(Perseus Digital LibraryのGreek Word Study Tool。変化形から、その見出し語の形と文法的情報が分かり、さらにギリシア語-英語辞書の項目説明も参照することができる。)

[授業外学修（予習・復習）等]

受講生は毎回、習った課の練習問題のギリシア語文を和訳をしてくること。
この際、ギリシア語文の個々の単語の文法的情報、すなわち名詞・形容詞ならば性・数・格、動詞

ギリシア語Ａ(3)へ続く↓↓↓

ギリシア語Ａ(3)

ならば法・時称・態・人称/数を、必ず分かるようにしておくこと。
この文法的情報のメモがし易いように、練習問題の各文の行間を大幅にとったワークノート形式の資料を別途ダウンロード形式で配布する（自分でノートにギリシア語本文を書き写してもよい）。

[その他（オフィスアワー等）]

このギリシア語A・ギリシア語Bは、人文・社会科学系科目群であるが、外国語科目群と同様に語学学習への強い目的意識をもって臨むことが肝要である。予習・復習には大幅に時間を使うことになるが、それこそがギリシア語を学ぶことの醍醐味である。

[主要授業科目（学部・学科名）]